

日本大学医学部 外科学系消化器外科学分野

2011 年度・後期臨床研修ガイド



ドクター・Akkina

後期研修医に外科を考えて
る、アナタの知りたいことを
聞いちゃいます。

1. 研修目的



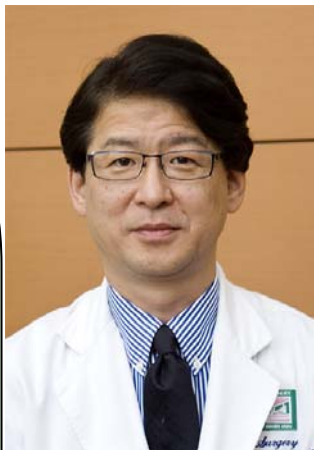
消化器外科では
何を研修するの？

外科と聞いて手術だけと思ってい
ませんか。プライマリーケアから腹
部救急の処置、抗がん剤の取り扱い、
ターミナルケアまで幅広く学び
ます。
患者さんとのコミュニケーションの
取り方、US・CT などの画像診断も
修得できます。
さらに治療指針、術式、基本的手
技、周術期管理を習得します。

2. スタッフ紹介 (板橋病院)



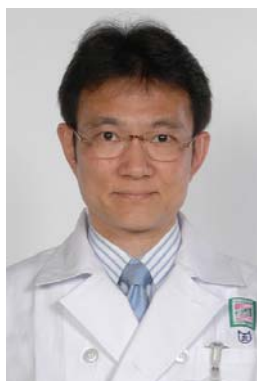
誰が教えてくれるの？



高山忠利教授：
臨床第一主義。卓
越した手術手技に
より世界初の肝尾
状葉切除を開発。
外科技術の獲得
に最も効率の良い
方法は論文作成と
語る。学生時代は
バスケットボール
部所属。



東風貢准教授：
腸管吻合方法や
抗癌剤治療につ
いて聞いてみよ
う。



中山壽之
専任講師：
テニスと写真
が趣味。手術
の写真撮影
や VTR 作成
に精通。



大久保貴生
講師：胆道
癌、膵臓癌の
治療につ
いて聞いてみよ
う。
リアルなイラストの達人。



檜垣時夫医長：
頼りになる病棟
医長。努力すれ
ば手術症例を当
ててもらえるか
も。



森口正倫医長：
年間 600 例の
angiography 検査
を施行。画像診
断や血管造影手
技について聞いて
みよう。

3. 研修行事

(板橋病院)



週間スケジュールは？

	曜日	月	火	水	木	金	土	日
7:30		症例検討会		症例検討会		症例検討会		休み
9:00		手術	手術	手術	検査	手術	手術	
13:00				教授回診				

- 消化器病検討会 (第 1、3 月曜日)
- リサーチミーティング(奇数月第 3 土曜日)
- 臨床研究カンファ (第 2 月曜日)
- 肝胆膵病理ミーティング(3ヶ月毎)
- 英語論文抄読会 (第 4 月曜日)
- 合併症検討会 (第 5 月曜日)

月曜日と金曜日の症例検討会は消化器外科医局で、術前患者さんの報告、手術所見の発表を行っています。水曜日は 4 階ゼミナール室でピックスのある患者さんについて検討します。担当医は十分に準備して、発表に望みます。



スタッフ紹介 (駿河台病院、練馬光が丘病院)



駿河台病院や練馬光が丘病院でも研修できる？



藤井雅志
教授: 消化器癌化学療法の特任講師。ブログもやっているよ。



増田英樹 教授 (練馬光が丘病院 院長) 炎症性腸疾患を学びたい人は集合。高校野球とTVドラマの勉強も出来るよ。



山形基夫 専任講師: 食道アカラシアの内視鏡手術を開拓。音楽コンサートに詳しいよ。



宋圭男 講師: 休日はゴルフでリフレッシュ。ヘルニア PHS 法を聞いてみよう



林成興 講師: イレウス予防法に詳しい。仕事の後は郷ひろみメドレーで盛り上がるよ。

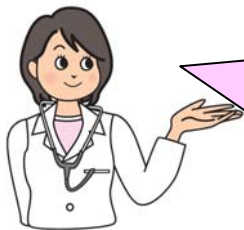


松田年 講師: 内視鏡外科の伝道師。飛行機マイレージ貯めてます。



間崎武郎 医長: 医学統計処理やソフトの使い方について聞いてみよう。

4. 定員



研修定員は？

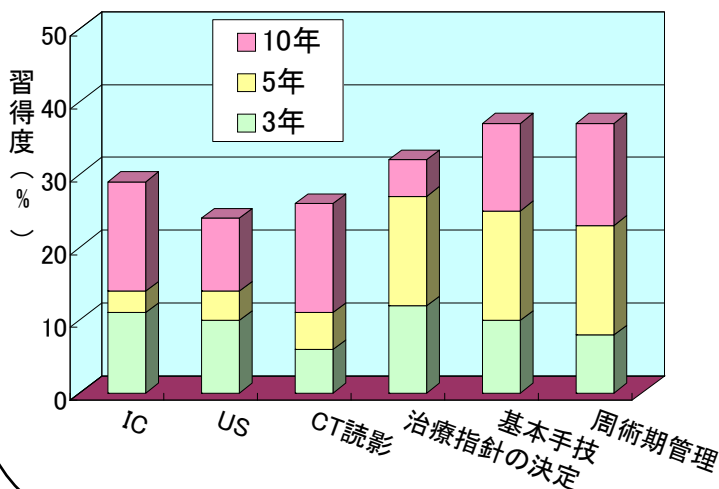
10人以内の研修を原則としますが、希望に応じて検討します。同期の桜から一生付き合える友人を作りましょう。日大出身でなくても歓迎します。和気藹々と研修できるのですぐに仲間ができると思います。
医学博士(学位)を取得したい方は大学院へ入学して日中は臨床、夜間は研究に取り組むことも可能です。

5. 期間



短期研修でも基本
手技や手術を学べるの？

研修期間は初期研修終了後3年次～12年次の10年間です。数年の短期研修でも全ての目標を学ぶことが可能です。長い研修期間がある方は、それぞれの項目をより深く学べ、外科専門医、消化器外科専門医の取得や学位の取得が可能となります



6. 待遇



生活できるかな？

専修医(後期研修医)は臨床経験年数により月給15.5～20万円、当直手当は1回5千円支給されます。社会保険・年金にも加入しており万一病気になっても安心。さらに週2回の外勤収入で生活も安定です。大学附属病院は全て23区内にあり引越しの心配もありません。

7. 休暇



ちゃんと休める？

勿論です。土曜日は半日、日曜日はお休みです。但し、月・水・金曜日は早朝カンファレンスがあるため7時30分に開始します。夏休みは2週間取ることができます。

消化器外科では女性医師を応援します。全国で277927人(男女比83:17)の医師届出があります(平成18年厚生労働省発表)。うち29歳以下医師の35.8%は女性で、これからは女性医師がますます活躍される時代です。全国で外科医総数は21574人、女性医師の50人に1人が外科医として勤務しています。

日本大学消化器外科では13人の女性医師が活躍中です。家庭と外科医を両立されている先輩も沢山います。当科の内規では産前6週間、産後8週間の産休が認められています。その他、年1週間以内の休暇を取ることができます。

大学院で研究を行い医学博士号を取得されたり、外科専門医・消化器外科専門医として活躍中の女性医師もいます。

もし、外科医への道を「考え中」の女性は、一度当科を訪ねてください。見学だけでも歓迎いたします。



女性でも外科は
大丈夫かな？



ブラック・ジャックみたいな
天才外科医になりたい。けど、不器用だし体力も学力も自信ない。
そんなアナタでも歓迎しております。
“未経験だから”こそ大切に育てていきます!!

8. 専門医



専門医取得を指導してもらえるかな？

いまや専門医は第二の医師免許といわれています。

当科には外科学会や消化器外科学会の専門医・指導医がたくさんいます。資格取得に必要な手術件数の確保や論文発表に最大限協力します。最短の場合、卒後4年で外科専門医予備試験(筆記試験)を、5年で認定試験(面接試験)の受験資格を得ます。さらに卒後8年で消化器外科専門医を受験できます。他にも肝臓学会指導医、大腸肛門病学会指導医、消化器病専門医、超音波専門医、消化器内視鏡専門医、乳腺専門医などの資格を持った医師が在籍しておりいつでも相談に応じます。

早く入局するほど、早く専門医を取得できます。



先輩の評価は？



小林奈々(平成19年卒)

初期研修の頃より消化器外科と決めてました。外科専門医取得には手術症例を1例ずつ登録することが必要なので、早く入局を決めてよかったです。



北條暁久

(平成19年卒) 初期研修とは比べ物にならないくらい症例を経験できます。入局後、高山教授の前立ちで肝切除を行ないました。一日も早く、上手な外科医になりたいです



渡邊愛

(平成17年卒) 医局の皆さんはとても優しくフレンドリーです。教授は特に女性に優しく、親切に手術を指導していただけます。手術後に先輩と飲むスターバックスは最高です。



外科医の靴 外科をローテーションした研修医は必ず「外科医は歩くのが速いですね」と口にします。病棟、手術室、医局、外来、検査室と病院中を駆け回るためには履き慣れたスニーカーを準備しましょう。でも、汚れた靴はマイナスイメージですよ。

9. 福利厚生



時にはリフレッシュしたいな！

— 生懸命働いた後の休憩は当直室へ GO !

大画面液晶テレビ、ブルーレイプレイヤー、冷蔵庫、電子レンジも完備。新春会や冬の忘年会も楽しみの一つ。

平成 21 年はフォーシーズンズホテルで忘年会を開催、200 人以上の病院関係者、消化器外科 OB と懇親を深めました。

また平成 22 年春にはウェスティンホテル東京で肝癌手術数日本一達成記念パーティーを行いました。



平成 22 年 4 月 ウェスティンホテル東京・新春会

10. 学位・博士(医学)

博士号を取得したい！

学位の最上位を博士と呼びます。論文を大学に提出し、審査に合格して初めて得られる資格です。博士(医学)の称号は大学病院で研鑽する医師の目標であり、一般病院やセンター病院では取得することはできません。しかし、一般病院やセンター病院の院長や部長に昇進するには博士号が必要といわれています。また、海外に留学する際は、博士号の有無により処遇が大きく変わるとも言われています。博士号を取得するには臨床を続けながら論文を執筆するか、大学院に進学して研究に集中することが必要です。

当科では積極的に論文執筆を指導しています。優れた研究論文は博士号の礎となります。多くの先輩たちは臨床と研究を両立させながら学位を取得されました。

大学院に進むのが良いか、臨床を続けるのが良いか、「迷ったり」、「良く分からない」という方は、一度消化器外科の医局を訪ねてください。



Splenocytes Can Replace Chimeric Cells and Maintain Allograft Tolerance

Yuuki Hayashi, Shintaro Yamazaki, Akira Kanamoto, and Tadatoshi Takayama

Background. The induction of donor-specific tolerance (DST) has recently attracted widespread attention as a new approach to facilitate engraftment without using immunosuppressants. One way in which to induce DST is to establish a chimeric state that allows donor-derived cells to exist within a recipient. This study aims to investigate whether splenocytes can be used to maintain chimerism and to prolong graft survival.

Methods. Mixed bone marrow (BM) was established in this chimeric model by lethally irradiating C57BL/6 mice on day 0, and transplanting BM from C57BL/6 and B6D.F1 mice into them. Skin grafts from C57BL/6 mice were transplanted on day 30. On day 60, splenocytes from C57BL/6 (group A), B6D.F1 (group B) and B6C3F1 (group C) mice were administered to the chimeric mice. The class I major histocompatibility complex (MHC) type, the percentage of chimeric cells in the peripheral blood, and the survival of skin grafts were assessed.

Results. After splenocyte infusion, BM-derived chimeric cells were eliminated from the periphery in group A (86.2 ± 5.9% to 0.04 ± 0.03%, P=0.0008), B6D.F1-derived cells increased in quantity and established an allochimerism in group B (83.7 ± 2.2% to 99.6 ± 0.2%, P=0.021), and in group C, the B6C3F1-derived cells significantly increased to a level of 77.8% at 180 days after infusion (P=0.014), thereby maintaining the new chimerism. Skin grafts in groups B and C survived for at least 200 days (P=0.0003 and P=0.0001, respectively).

Conclusions. Chimerism arising from cells with a partial MHC, match to the graft allows the maintenance of specific immunotolerance and graft survival.

Keywords: Bone marrow, Chimerism, Donor specific tolerance, Skin graft, Splenocytes.

(Transplantation 2007;84: 1168-1173)

The development of effective immunosuppressants has dramatically improved both graft and patient survival rates in organ transplantation, and has contributed to advances in medical transplantation during the past few years. However, the long-term administration of immunosuppressants leads to life-threatening complications (1-8). Moreover, although short-term results have improved with progress in sur-

mice to lethally irradiated recipient mice, together with BM that is histocompatible with the recipient mice, so that the recipient hematopoietic cells can be partially replaced by donor-compatible cells (16). By contrast, allochimeric mice can be produced by completely replacing the BM with allogeneic hematopoietic cells. Compared to an allochimeric mouse, a mixed chimera is more stable and less susceptible



林友紀 医師(平成 20 年日本大学大学院卒)の学位論文(Transplantation 2007; 84: 1168-1173)。

11. 留学



留学して国際派を目指したい！

欧米雑誌に論文を投稿したり、国際学会で発表して世界に情報を発信することは大切です。さらに国内外を問わず、他施設に留学し他流試合で自分を磨くことを薦めます。当科では沢山の先輩たちが留学を経験しています。世界中の主要施設にネットワークがあるからこそ得られる特徴だと思います。

最近では初期研修に他施設を選択する研修医が増えています。まずは母校の初期研修により基礎力を養い、自分の進む道がある程度決定してから国内留学することを是非、お薦めします。

主な留学先

東京大学病院、慶應義塾大学病院、国立がんセンター中央病院、癌研究会有明病院、東京大学医科学研究所、獨協医科大学病院、独立行政法人理化学研究所、ピッツバーグ大学、M.D.アンダーソンがんセンター、南カリフォルニア大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、他

12. 手技

どんな外科処置を習得するの？

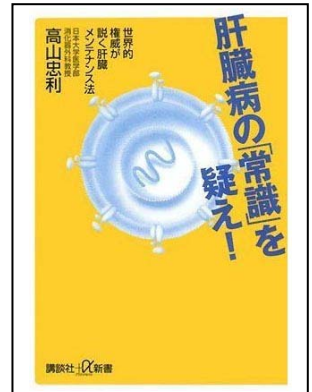


外科研修に器用、不器用は関係ありません。基本の積み重ねが大切です。



患者とのコミュニケーション

インフォームドコンセント
消化管造影・超音波検査
内視鏡検査・血管造影
虫垂炎手術
鼠径ヘルニア手術
消化管手術
肝切除術 他



初期研修を日本大学以外で受けられた方の受け入れも問題ありません。

卒後1~2年
他大学で初期臨床研修

卒後3~5年
消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科を短期ローテーションし外科学会専門医申請に必要な経験を積む。

卒後4~6年
研修協力関連病院において、一外科医として約2年間外科臨床に従事。

後期臨床研修

待遇は専修医になります。

希望者には内視鏡検査室・超音波検査室・麻酔科で研修。

卒後5年~
消化器外科部門において消化管外科・肝胆膵外科・移植外科の手術手技・周術期管理を経験。

初期臨床研修を日本大学以外で受けました。



専修医コース			卒後年数	月	大学院コース		
初期臨床研修			1～2年		初期臨床研修		
研究	専門医	臨床			研究	専門医	臨床
入会 外科学会 消化器外科学会 癌治療学会	外科専門医修練 (大学・関連病院)	虫垂切除術・鼠径ヘルニア手術・胆嚢摘出術の術者	3年	4月	入会 外科学会 消化器外科学会 癌治療学会	外科専門医修練 (大学病院・関連病院)	虫垂切除術・鼠径ヘルニア手術・胆嚢摘出術の術者
学会発表				5～9月			
学会発表	術者または助手として350例の経験が必要。うち120例は術者であること。	結腸切除術・幽門側胃切除術の術者	4年	10～3月	研究(テーマ申請・研究実施)	術者または助手として350例の経験が必要。うち120例は術者であること。 この条件がそろうまで面接試験は受けられません。	当直勤務などで消化器手術の助手
学会発表		直腸切除・胃全摘の助手		4～9月			
症例論文発表		乳腺(10例)・呼吸器(10例)・心臓大血管(10例)・末梢血管(10例)・小児外科(10例)を経験		10～3月			
学会発表	(外科専門医筆記試験)	肝胆膵手術の助手	5年	4～7月	国内外の学会発表	(外科専門医筆記試験)	当直勤務などで消化器手術の助手
症例論文発表				8月			
	(外科専門医面接試験)	胃全摘・直腸切除・肝切除の術者	6年	9～3月	研究(成果発表・学位論文提出・論文審査) 博士(医学)授与	(外科専門医面接試験) 外科専門医取得	症例の割当は学位授与後の所属施設において適宜配分する。
研究(テーマ申請・成果発表・学位論文提出・論文審査)				4～10月			
				11月			
	消化器外科専門医修練(大学・関連施設)	食道切除・肝切除・膵頭十二指腸切除の術者	7～9年	12月	研究の継続・海外留学・後輩の指導	消化器外科専門医修練(大学・関連施設) 術者として450例の経験が必要。筆頭者として論文3編必須。	症例の割当は学位授与後の所属施設において適宜配分する。
				1～3月			
博士(医学)授与	術者として450例の経験が必須。筆頭者として論文3編必須。		10年～			板橋病院班長経験 関連施設出張	
	板橋病院班長経験 関連施設出張				研究(大学・留学)		



専修医コースと大学院コースのどちらかを選択してください。

研 究業績: 研究内容は欧文雑誌に発表します。

論文名	著者	雑誌名	巻	号	頁	年
Duodenal stenosis caused by cystic dystrophy in heterotopic pancreas: report of a case.	Yoshida N, Nakayama H, Hemmi A, Suzuki T, Takayama T.	SurgeryToday	39	9	803-6	2009
Simplified technique for one-orifice vein reconstruction in left-lobe liver transplantation.	Yamazaki S, Takayama T, Inoue K, Higaki T, Makuuchi M.	Liver Transplantation	15	1	115-6	2009
Arterial stimulation and venous sampling (ASVS) is useful for recurrent lesions of insulinoma: a case report.	Kutsuna N, Yamazaki S, Itoh Y, Wakabayashi K, Iwama A, Watanabe Y, Haraguchi Y, Ueda T, Takayama T.	Surgical Laparoscopy Endoscopy & Percutaneous Techniques.	19	4	138-9	2009
Use of a bridging autologous hepatic vein graft for extended right-liver transplantation	Watanabe Y, Takayama T, Yamazaki S, Aramaki O, Moriguchi M, Higaki T, Inoue K, Makuuchi M	Transplant International	22	12	1193-4	2009
Transplantation-related thrombotic microangiopathy triggered by preemptive therapy for hepatitis C virus infection	Yamazaki S, Takayama T, Inoue K, Higaki T, Makuuchi M	Transplantation.	86	7	1010-1	2008
Surgical resection vs. percutaneous ablation for hepatocellular carcinoma: A preliminary report of the Japanese nationwide survey.	Hasegawa K, Makuuchi M, Takayama T, Kokudo N, Arii S, Okazaki M, Okita K, Omata M, Kudo M, Kojiro M, Nakanuma Y, Takayasu K, Monden M, Matsuyama Y, Ikai I	Journal of Hepatology	49	4	589-94	2008
Bioresorbable membrane to reduce postoperative small bowel obstruction in patients with gastric cancer: a randomized clinical trial	Hayashi S, Takayama T, Masuda H, Kochi M, Ishii Y, Matsuda M, Yamagata M, Fujii M	Annals of Surgery	247	5	766-70	2008

Clinical identification of colorectal cancer patients benefiting from adjuvant uracil-tegafur (UFT): a randomized controlled trial	Fujii M, Takayama T, Kochi M	Journal of Cancer Research and Clinical Oncology	134	12	1319-23	2008
A case of gastritis cystica profunda	Tomizuka T, Mazaki T, Mado K, Henmi A, Ishii Y, Masuda H, Takayama T.	Surgery	143	3	449-50	2008
Development of evidence-based clinical guidelines for the diagnosis and treatment of hepatocellular carcinoma in Japan	Makuuchi M, Kokudo N, Arii S, Futagawa S, Kaneko S, Kawasaki S, Matsuyama Y, Okazaki M, Okita K, Omata M, Saida Y, Takayama T, Yamaoka Y	Hepatology Research	38	1	37-51	2008
Surgical treatment of hepatocellular carcinoma: Evidence-based outcomes	Yamazaki S, Takayama T	World Journal of Gastroenterology	14	5	685-92	2008
Macroscopic portal vein tumor thrombi of liver metastasis from colorectal cancer	Oikawa T, Takayama T, Okada S, Kamo T, Sugitani M, Sakamoto M	Journal of Hepatobiliary Pancreat Surgery	16	1	90-3	2008
Early hepatocellular carcinoma: pathology, imaging, and therapy	Takayama T, Makuuchi M, Kojiro M, Lauwers GY, Adams RB, Wilson SR, Jang HJ, Charnsangavej C, Taouli B	Annals of Surgical Oncology	15	4	972-8	2008
Effect of gastrectomy on the pharmacokinetics of S-1, an oral fluoropyrimidine, in resectable gastric cancer patients	Kochi M, Fujii M, Kanamori N, Kaiga T, Aizaki K, Takahashi T, Takayama T	Cancer Chemotherapy and Pharmacology	60	5	693-701	2007
Splenocytes can replace chimeric cells and maintain allograft tolerance	Hayashi Y, Yamazaki S, Kanamoto A, Takayama T	Transplantation	84	9	1168-73	2007
Imaging modality of three-dimensional CT in caudate cholangioma: assessment for resectability	Yamazaki S, Takayama T, Watanabe Y, Oikawa T, Hayashi Y, Kochi M, Moriguchi M, Higaki T, Inoue K	Hepato-Gastroenterology	54	74	397-9	2007

Systemic administration of IL-23 induces potent antitumor immunity primarily mediated through Th1-type response in association with the endogenously expressed IL-121	Kaiga T, Sato M, Kaneda H, Iwakura Y, Takayama T, Tahara H	Journal of Immunology	178	12	7571-80	2007
Complete remission by chemotherapy in stage IE-IIIE primary gastric lymphoma	Kochi M, Fujii M, Kanamori N, Kaiga T, Takahashi T, Kobayashi M, Takayama T	Hepato-Gastroenterology	54	76	1285-8	2007
Measurement of extra-pancreatic secretory function by ¹³C-dipeptide breath test	Ishii Y, Kohno T, Ito A, Suzuki S, Kohno T, Takayama T, Asai S	Translational Research	149	6	298-303	2007
Triple cancer in liver, esophagus and urinary bladder : indications and problems of hepatectomy	Nakayama H, Takayama T, Inoue K, Higaki T, Hayashi Y	Hepato-Gastroenterology	54	73	238-40	2007
Usefulness of rectally administering [1-(¹³C)]-butyrate for breath test in patients with active and quiescent ulcerative colitis	Kato K, Ishii Y, Mizuno S, Sugitani M, Asai S, Kohno T, Takahashi K, Komuro S, Iwamoto M, Miyamoto S, Takayama T, Arakawa Y	Scandinavian Journal of Gastroenterology	42	2	207-14	2007
Is retention of a nasogastric tube after esophagectomy a risk factor for postoperative respiratory tract infection?	Sato T, Takayama T, So K, Murayama I	Journal of Infection and Chemotherapy	13	2	109-13	2007



もっと消化器外科研修について知りたい！



消化器外科のロゴマーク:
シンプルな直線的デザインで
消化器臓器を表現します。

詳細は

日本大学医学部外科学系消化器外科学分野

<http://www.med.nihon-u.ac.jp/department/surgery3/>

☎ 03-3972-8111 (内 2471) 担当: 中山壽之

E-mail: hnakayam@med.nihon-u.ac.jp

SURGERY NIHON UNIV 日本大学医学部外科学系 消化器外科学分野 



高山忠利教授

肝臓病の「常識」を疑え! 世界的権威が説く肝臓メンテナンス法
高山忠利 講談社+アルファ新書
出版社:講談社 840円(税込)
紹介ページはこちらをクリック
(ISBN-13:978-4-06272481-4) (ASIN:4062724812)
2008年1月24日発売

当科紹介:「当科の肝がん手術件数が全国第1位に!」
詳細ページはこちらをクリック

各ページのご案内

- ★駿外会・教室連絡ページを更新しました。(4/8)
- ★「無作為化のすすめ」「論文のすすめ」ページを作成しました。(4/1)
- ★一般の方向ページ、テレビ出演の報告動画の不具合を修正しました。(3/27)
- ★一般の方向ページを更新しました。(3/25)
- ★当科紹介ページ「当科の肝がん手術件数が全国第1位に!」を更新しました。(3/24)
- ★新規「黄金率」ページを作成しました。ご覧下さい。(3/5)

- ・一般の方向ページ
- ・学生向けページ
- ・駿外会員ページ
- ・関連病院ページ
- ・教室内ページ(要IDとPASS)

こちらよりご覧下さい。
＜クリックして下さい＞

初期臨床研修医募集 ページリンク | 後期臨床研修医募集 ページリンク | 肝がん多施設共同研究 SURF | PDFがご覧にならない方はこちらよりAcrobatReader

© 2007 Division of Digestive Surgery Nihon University School of Medicine all rights reserved

応募券を持参した消化器外科研修希望者には、
消化器外科特製研修医マニュアルを差し上げます。



応募券